

支部だより

関東支部

昭和三十六年卒

東 建路

関東支部第二六回総会は、令和四年十一月十二日JR四ツ谷駅前、主婦会館に於いて、来賓に母校より谷校長先生、同窓会本部より本会長、白山市東京事務所古屋所長に会員七名の参加により開催しました。司会者より、三期間に故人になった会員への黙とう後、議長よりコロナ禍で総会が二回中止となった間に会員の高齢化が進み出席者が一桁と言う組織の弱小化の様相に危惧を報告。校長先生からは母校の農業クラブ入賞報告。会長より就任の経緯や同窓会の活性と賑わいへの応援、創立百五十周年記念事業への取組、安川先生と自社とのコラボ商品(現品は、会員にお土産として配付)の開発販売等母校を上げたことの抱負のご挨拶。今総会の議長提案の第一(第三議案は満場一致承認可決)総会を終了しました。引き続き懇親会に入り所長が白山市の近況報告のご挨拶



松永 潔

関西支部

昭和三十三年卒

金沢支部

令和四年度六星同窓会関西支部総会を十月二十二日に例年通り、梅田ホテルグランヴィア大阪内「なにわ食彩しずく」に於いて、六星同窓会新会長 本昌康様と、母校より学校長 谷正一先生にご臨席いただき

開催いたしました。新会長 本昌康様のご挨拶に続き、谷正一校長先生より学校の近況報告をいただきました。続いて「事業報告」「収支決算報告」を致しまして、ご承認いただきました。六星同窓会関西支部の役員会で度々検討してきました結果、今期の二〇二三年三月三十一日の決算を最後に関西支部を閉鎖することに決定しました経緯の事情報告を致しました。関西支部は六〇年の歴史があり、非常に残念でありませんが、現在の総会に於いては八十三歳以上のご高齢の役員の方のみの参加となり、継続するには無理と役員会で判断致しました。関西支部の経緯「歴史記録ファイル」を作成して本部に提出して保管していただきます。六星同窓会の今後の発展をお祈り申し上げます。

東海支部 昭和三十七年卒 猿渡 孝之(旧姓加成) 今年度の「六星だより」に良い報告がしたく、我なりに活動をしてきましたが、安全対策上、集合での活動は控える様言われ、やむなく今回も支部としての活動報告はありません。こんな状態が、いつまでも続くのでしょうか。案じています。



翠星トピックス

沢山の表彰を受けました!

- 《今年度の表彰》
- 農業クラブ 全国大会 優秀賞
 - プロジェクト発表会Ⅱ類 優秀賞
 - 食品科学研究会 平田 歩美
 - 意見発表会Ⅱ類 優秀賞 上谷 菊環
 - 農業鑑定競技会 優秀賞 佐藤 楓
 - 園芸分野 中田 堯
 - 食品分野 原田悠衣花
 - 造園分野 長原 蒼桜
 - 第一三回全国和菓子甲子園 特別賞(三位相当) 菅原 優希
 - 食品科学コース 田邊 陸
 - 第五〇回毎日農業記録賞 平田 歩美
 - 高校生部門 優秀賞



農業クラブ全国大会の表彰状



全国和菓子甲子園特別賞受賞

- 《資格取得》
- 測量士補試験合格
 - 環境科学コース環境設計分野 三年 山上 翼

事務局だより

【本部】

- 【会計監査】六月十一日(土) 翠星高校
- 【総会】十一月二十三日(水・祝) グランドホテル白山
- 【支部総会】金沢支部総会 中止
- 東海支部総会 中止
- 関西支部総会 十月二十二日(土) 梅田ホテルグランヴィア
- 関東支部総会 十一月十二日(土) 主婦会館プラザエフ



発行所
〒924-8544 石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
印刷所
六星同窓会
印刷
〒924-8544 石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
印刷所
六星同窓会
印刷

開校一五〇周年に向けて

六星同窓会 会長 本昌康

石川県下でもっとも歴史ある高校として、あるいは全国で一番早く創設された農学校として輝かしい歴史をもつ本学が二〇二六年に開校



校長 谷正一

翠星高校 この一年

同窓会員の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年四月、本校の教頭から校長として着任し、講師・教諭として二年、教頭三年で、今年度が松任農業高校翠星高校合わせて本校の勤務三〇年目を迎えました。この一年を振り返ると、最も大きな

一五〇年を迎えます。校長室に並ぶ歴代校長の肖像のなかには髻姿で刀を携えた初代吉崎宇一先生のものがありますが、改めて本学の歴史の長さを感じ入ります。本来一五〇周年記念は学校行事として行われるわけですが、翠星高校で、松任農業高等学校で、更には松任高等学校、松任高等学校で学ばれた多くの卒業生を擁する六星同窓会が祝意を表することは会員の総意であろうと思います。同窓会といいたしましても一五〇年の節目を祝い、続く二〇〇年に向かい更なる母校発展のために翠星高校を力強く応援し

てまいる所存です。そこで教職員の皆様方に記念事業としてご要望を募りましたところ、校舎正面に広がる庭園整備の申し出をいただきました。当時の記録「開校一〇〇年記念誌」には、この庭園は一〇〇周年記念行事の折に造園実習見本園として四つのテーマ(フランス・イタリア・イギリス・日本)をもつた庭園が企画されたものであり、県費の縮減で手の届かなかった箇所を一〇〇周年記念事業費をもって完成を見たことと記されております。それから五〇年近い時を経て庭園は今後の管理が思いやられるような佳しい状態となっており、近所から苦言もいただいているとも聞いております。私も何度か庭園に足を踏み入れましたが、各様式の庭園として整備されてきただけに回遊性に乏しく樹木の剪定や刈込も特殊でそれゆえに管理の大変さも感じ取ることができました。これを回遊性のあるものとして散策する人の姿が見通せるように変えていったなら新たな魅力的な

環境が生まれると感じしたのでした。これらの植樹が諸先輩方々のご努力でなされたことを思いますと、なんとしても次の二〇〇周年に向けて残さねばならない、生徒にとっても更には地元白山市にとっても居心地よく緑あふれる魅力ある場として再開発させたいの思いが募ってまいりました。五〇年を経た木々をこれから先も育て続け、一〇〇年を目指し庭から森へと公園化を進めていきたいとの未来図を描いてみたのです。生徒が屋外で集い高校生活の思い出として記憶に残る風景を創造し、これまでにこの地で培われてきた「記憶と命ある財産」を受け継ぎ未来に繋いでいくための前庭改修計画です。これを残さねばならないの思いを強くしたのは「開校一〇〇年記念誌」に記録された寄付金総額の大きさもさることながら、募集対象者九五〇〇人

ともに自己有用感が高まったのではないかと思います。大会終了後、全国の農業高校の先生方から「大変すばらしい大会でした。ありがとうございます」というお礼の言葉をたくさんいただきました。大会が成功裏に終わられたことを実感しました。そして、六星同窓会からも多大なご支援をいただき、深く感謝申し上げます。また、今年度は、コロナ禍で大きな制限を受けてきた学校行事である修学旅行及び文化祭の実施も大きな出来事でした。六月に二度の感染拡大による延期を経て三年生が、十一月に中学時代に修学旅行を経験できなかった二年生が初めて最後の修学旅行が実施されました。旅行先は、今回からいづれも九州、多くの生徒たちにとって、初めて訪れた場所になりました。両学年それぞれの思いで、充実した修学旅行を満喫しました。



現在の校庭



3年後の校庭の完成予想図

命名！「蔵出し革命」 酒米削り粉のポテンシャルの証明



石川県は十一年か
け、大吟醸酒用の酒
米新品種「石川酒
六八号（愛称：百万石乃白）」を開発し
ました。日本酒は、酒米（酒造好適米）
を主原料とし、玄米表面を削って得た心
白部分を利用しています。精米の際に出
る削り粉は「糠（赤・中・白・上白）」
として業者に処分され、飼料や低価格な
煎餅等の原料となっています。地元酒蔵
から「百万石乃白削り粉」の商品開発依
頼があり、上白糠（百万石乃白削り
粉）の活用方法確立と食料自給率向上を目的
とし、研究を開始しました。



ラーメンやうどん、スポンジケーキ、
クッキーなどの試作や物性試験の結果、
酒米削り粉は「非加熱で糊化し粘性が出
る」と判明しました。品質に影響しない
程度の酒米削り粉
を輸入小麦粉の代
替とすることで、
日本の食料自給率
向上に寄与できる
と考えられます。
商品化に当たっ
ては、卒業生に多
大なご協力を賜
りました。卒業生
のバティシエ早川
崇史さんには、ク
レープやガレット
の製造指導をして
頂き、協働開発し
た「SDGs 酒米

食品科学コース 教諭 安川 三和
平成十一年卒業 園芸科学科

クレープ（酒米削り粉五〇％配合）は
MRO放送局開局七十周年記念番組
で特集された他、イオンモール白山
「FOOD HALL LOCKU」で七月
（十二月に三二個が販売されました）
また、酒米削り粉のしつとりとした食感
を活かしたケーキ「いな穂ねこ」を、本
昌康同窓会会長が会長を務める「株
ぶどうの木」から全国に販売して頂きま
した。一連の酒米削り粉活用システムに
「蔵出し革命」と名付け、現在も食品
科学研究会生徒と普及活動に取り組んで
います。



おかげさまで、酒米削り粉商品地元
だけでなく全国にPRすることができま
した。卒業生の強力なバックアップに感
謝申し上げます。
と共に、脈々
と流れる同
窓会の絆の強
さを感じるこ
とができてま
した。今後も卒
業生の一人と
して母校を盛
り上げていき
ます。

第七三回日本学校農業クラブ 全国大会北陸大会開催

生徒実行委員長 総合グリーン科学科
吉村 絵里



昭和から連綿と受け
継がれてきた農業クラ
ブ全国大会が四九年ぶ
りに石川の地で開催さ
れました。本校を中心校とし、北陸三県
一二校一七〇名の農業クラブ員が一致
団結し、準備を重ねてきました。北陸大
会開催にあたりまして、六星同窓会様か
ら多大なご支援を賜りましたことをここ
に感謝申し上げます。北陸大会を機に今
後も翠星高校および農業クラブが繁栄さ
れることをお祈りしています。

六星賞受賞

総合グリーン科学科 食品科学コース
三年 佐藤 楓



日本学校農業クラブ
全国大会のプロジェクト
発表会等において、
優秀な成績を修めた。

令和二年度地産地消等優良活動表彰
教育関係部門 文部科学大臣賞
第七二回日本学校農業クラブ全国大会
プロジェクト発表会 III類 最優秀
賞・文部科学大臣賞
第七三回日本学校農業クラブ全国大会
プロジェクト発表会 II類 優秀賞

シクラメンとの出会い

昭和四十六年卒 農業科
六星同窓会副会長 宮子 豊吉



私の父は、私が生ま
れて四か月の時、ある
日突然他界しました。
母は大変苦労したと思
いますが、ご近所や親
戚の応援を頂きながら
で生きてくれ、とても感謝しています。
小学校は田んぼ道を片道一kmほど歩いた
所であり、どんなに強い雨の日も、風の日も、
雪の日も、歩いての通学です。三年生の時、田
植えも終わり青田になった頃、畦畔に母が移植
していましたが、大豆の種を三、四粒ほど播種
して、種を蒔いた所に小さな葉っぱが出ていたの
で、近くの田んぼで草取りをしていた母に聞い
たら、「これは大豆の新芽で、子葉や」と言われ、
日に日に大きく成長していく大豆に感激
し、植物と生物が大好きな少年になりました。
植物の大好きな宮子少年も中学生となり、
将来は施設園芸を職業に決め、理科と数学が大
好きで、相変わらずの国語と英語は嫌いで、社
会は暗記すれば点を取れると割り切り、部活は
バスバンド部に入学してトランペットの担当
でしたが、私には音楽的才能は無く、一年で退
部。二年生になって新しくサッカー部が出来、
「農業は体力勝負」だからと入学し、三年生に
なつてからは、松任中学校キャプテンで活躍し
ました。

「草花の温室は快適で良いですね。専攻す
る植物を決めなければならぬのです。」
「宮子君、ちよつとこつち来てみ、今シク
ラメンの定植作業をしている最中や。将来人気
が出る鉢花やと思ってるがや。君、シクラメン
やってみんか。」で、決定しました。
シクラメンの研究内容は、「シクラメン培養
土の物理性・化学性と生育の関係」と決定し、
当日より開始となりました。この研究は、二年
生、三年生の時も続け、昭和四十五年十月五日
にプロジェクト発表Aの部で最優秀を受賞しま
した。
一年生・二年生の二年間サッカー部にも籍
を置き、生徒会役員にも立候補し、一年生後期
は書記、二年生前期は副会長、二年生後期と三
年生前期は生徒会長を務め、一日が二四時間で
は足りない程の毎日でした。
昭和四十七年の秋、農協で農業近代化資金
を借入し、五十坪のガラス温室二棟と三十坪の
ビニールハウスを建設。昭和四十八年三月石川
県農業短期大学卒業と同時にシクラメン生産開
始。昭和五十年、布施明の歌う「シクラメンの
かほり」が大ヒットし、第一七回日本レコード
大賞を受賞。シクラメンは「鉢花の女王」とな
り現在に至っています。

賞状



昭和四十三年四月に松任農業高校農業科に
入学、園芸コースに所属し農場実習もいろいろ
体験し、七月中に何を専攻するか決める日とな
り、トマトが栽培されているビニールハウスを
見に行きました。その日は太陽がキラキラの暑い
日、サイドのビニールは開けてあるのに入口の
扉を開けて中に入ってみると「暑い・暑い
・ここはダメだ。」
気を取り戻して、校舎正面玄関前の草花の
温室を目指した。温室を見渡すと、天窓は全
開、横窓も全開、室内の寒冷紗の内張が施さ
れ、風で揺れている。室内に入って「ワー涼

ボランティア活動を楽しむ

昭和四十年卒 農業科
六星同窓会常任理事 佐野 烈



私の教員生活のス
タートは柳田農業高校
で、主に野菜担当を三
年勤め、母校松任農業
高校へ当時の校長（橋
本竜太先生）に招かれ
紙谷久之教頭先生のご担当であった草花を引き
継ぎ、その後改編した造園科に移り、東京農大
造園学科への内地留学と先輩の雄谷藤男・石井
嘉之助両先生からご指導をいただき、主に造園
科目を担当いたしました。

石川県造園研究会、日本造園修景協会石川
県支部の設立にも参加しました。それらのご縁
もあり本校教頭を務めた後に、金沢学院短期大
学非常勤講師に招かれ、造園設計を担当し併せ
て石川県森林公園囑託としてインフォメーショ
ンセンターと野外活動施設館・森林学習展示館
の館長を兼務して森林の大切さ、緑と文明につ
いての講習やガイド、展示等を担当してまいり
ました。これらの勤務を終えた後は地区・地域
の様々な活動に参加してまいりましたが、近年
は民間ボランティア団体「金沢城・兼六園研
究会」に入会し活動を行っています。

この団体は、平成三十年設立で金沢城・兼
六園を愛し、その魅力を学び伝えることを目的
にした団体で現在、城と庭の探究講座「金沢
城大学」を終了した一八名が活動していま
す。①学ぶ活動では、講演会、研修旅行、学習
会、研究発表会、グループ活動、②伝える活動
では、兼六園・金沢城案内、高砂大学兼六園
講座・ガイド、公民館などの各種団体の社会教
育、広報活動では研究発表文集発行、会報発行
そして交流活動では、大名庭園民間交流協議会
（この三年間は新型コロナの感染拡大により開
催中止でしたが来年は香川県高松市で開催の予
定です）
この月末には、今年度入会グループの学習
会で「日本の庭園様式の変遷と特徴について」
お話しするため、自らも楽しみながら現在パ
ワーポイントで映像を作成中です。

多機能コンテナで アグリノベーション！ Welcome to 「箱システム」



生物資源コース 農学分野
教諭 川端 伸

「箱」とは、軽トラッ
クの荷台に木造コンテナ
を載せ、農産物の加工作
業や販売活動に活用する
新しい農業モデルです。
○箱の○には、作業箱・
販売箱などどんな箱にも
なるということです。○
箱の中には農産物以外に
人も入ることもでき、自動運転中の農業
機械の監視と他の作業も同時にできます。
六星同窓会様からご支援を頂き、今年度つ
いに○箱を完成させ、イオンモール白山で
の販売や校内販売を行うことができました。
感謝申し上げます。



少年老い易く学成り難し

昭和三十四年卒 農業経済科卒
六星同窓会理事 前田 勝紀



今は進学先が偏差値で
決められている傾向があ
る。私の入学した昭和三十
年の農業科は、農家の長
男が殆ど。我が家の耕作
面積は加賀平野の分家の
分家位。この大地主の中に
来たのは間違いないと思
った。おまけに中学校の英語は
ABC位しか習っておらず、入試の選択科目は前述
の様で農業で受験。どの顔も賢そうで、どここの
トップとかで、こいつら天才かと思うくらい。一年生
の最初が、グリーンキャピラから始まった英語は暗
黒の時間。訪れるものは、浅野川の急流を上流に向
かって泳ぎ鍛えた体で、後に走る（陸上）、泳ぐ（平
泳ぎ）、滑る（スキ）の三種目で県体に出た馬力。
その様な出来の悪い私が三十五歳後半に韓国や台
湾の担当になり、出張するのはどの様な気持ちか
理解出来ると思う。しかし、人間真剣に成ると解
決出来た。何とかその国の言葉を理解し理解させ
られるのは三月。その後、国際交流の団体の
ボランティア事業に携わるとは予想だにしていなかつ
た。私の様な凡人以下の者が在校生を見たとき、
パソコンと同じで機能があるのに使われない。皆さん
は能力があるのですから、今のうちにうんと鍛え
て下さい。その私の努力の源に成ったのは、副知
事が来校しその時、三月月に二冊、三年間では十二
冊の専門の本を読めば誰にも負けない専門家に成
れると教わったことと、絵の泉先生から、「習」と
言う字は、誰は生まれながらにして黒に近い色で、羽
を一生懸命に動かす努力をする事で白くになると教
わったことだった。交渉力が評価され、四十歳の
時、石川県庁や金大移転、先端大学、看護大学や
新幹線等の事業に携わることになった。

東京農大に進む事になったが、当時は単科大学
で奨学金は出せませんと聞き、諦めました。その
思いは息子（六十年造園卒）が叶えて呉れました。
松農を選んだ理由は、卒業しても皆さんが交流し
て居るのが魅力だったこと。
国の根幹は食糧と防衛。そして人材育成であり、人
生一〇〇年の時代、国際交流を通じての人材育成を、
まだ有る人生で尽くしたいと努力中。翠星高の皆さん
国の貴重な人材としての活躍を期待しています。